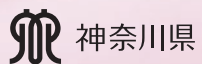


あ
り
が
と
う
を
届
け
た
い



かながわ感動介護大賞実行委員会

福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL.045-210-1111 (内線:4837)



ともに生きる社会
かながわ憲章

KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

Instagram ID: かながわ憲章【公式】

かながわ憲章 検索



受賞作品の
ドキュメンタリー動画を
Webで公開しています



神奈川県
「認知症のひと
家族を支えるマーク」



第11回 かながわ感動介護大賞 作品集

かながわ感動介護大賞実行委員会

付 録
第10回
最優秀賞作品
漫画化!!

はじめに

おかげさまで、第11回を迎えた「かながわ感動介護大賞」。

今年も、高齢者の方やご家族、介護職員の方々から、たくさんのエピソードを寄せていただきました。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症になりましたが、介護職員の皆さんには、緊張感のある中で、今も日々、一生懸命業務にあたっていただいているところです。

こうした中、「介護フェアinかながわ」で、受賞された方を直接表彰できたことを、嬉しく思います。

介護の仕事は、介護を必要とするお一人おひとりに寄り添い、その人らしい生活に向けた支援を通して、その方の生きる喜びを一緒に作り出していく仕事です。

また、普段の会話やふれあい、お互いの何気ない心遣いを通じて、感謝ややりがい、感動が生まれる魅力ある仕事です。

介護を必要とする人、介護に携わる人を社会全体で支え合うために、介護の仕事の魅力を、より一層多くの方々に知っていただき、介護の仕事への理解が進んでいくことを願っています。

この作品集は、介護現場の様々な場面を通じた仕事の醍醐味にあふれています。作品を通して、介護の仕事の素晴らしさを改めて感じていただければ大変嬉しく思います。

皆さんとともに介護の仕事が笑顔の「介護文化」として定着し、この作品集を読んだ方々に介護の仕事の魅力を感じていただければ幸いです。

かながわ感動介護大賞実行委員会（構成団体）

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会
一般社団法人かながわ高齢者住まい連絡協議会
公益社団法人横浜市福祉事業経営者会
川崎市老人福祉施設事業協会
公益社団法人神奈川県社会福祉士会
公益社団法人神奈川県介護福祉士会
一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
公立大学法人神奈川県立保健福祉大学
株式会社テレビ神奈川
株式会社神奈川新聞社
横浜エフエム放送株式会社
神奈川県

かながわ感動介護大賞 表彰選考会委員（〇…座長）

公益社団法人神奈川県社会福祉士会…………… 雨宮 徹
公益社団法人神奈川県介護福祉士会 会長…………… コッシュ石井 美千代
一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会 副理事長…………… 小藪 基司
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会 …………… 石島 美紀
公立大学法人神奈川県立保健福祉大学 准教授…………… 〇大島 憲子
東海大学教育開発研究センター 准教授…………… 御領 奈美
田園調布学園大学 准教授…………… 増田 いづみ

作品目次

最優秀賞	「介護の女神」……………	1
優 秀 賞	「その願いをかなえたい…」……………	3
	「皆様に支えられて、祖母は御年九十五歳」……………	5
	「ある日の事」……………	7
	「元気に働く母親への思い」……………	9
	「命を繋ぐ花」……………	11
佳 作	「私は92歳 まだまだ元気です」……………	13
	「『サロンデイ』のデイサービスに通って」……………	14
	「ツナちゃんとお別れ」……………	15
	「『元気の源』妻の支えとサロンデイ」……………	16
	「老後の楽しみ人の和にあり」……………	17
	「どんな時も寄り添って」……………	18
	「ありがとう」……………	19
	「感謝の気持ち」……………	20
	第11回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評 ……	21
	付録 第10回最優秀賞作品 漫画 ……………	23

※作品は、応募者の意向を尊重し、ほぼ表現を変更せず掲載しました。

※介護を受けたご本人・ご家族以外からの作品は、ご本人・ご家族からの承諾を得て掲載しています。



「介護の女神」 中山 恵美代様

彼女の最初の患者は私だった。脳出血で倒れ、右半身麻痺となった母の、動かない右手をミーちゃん、左手をヒーちゃんと呼び、笑顔で励まし続けた。だから私も笑った。

でも、娘が介護職を選んだ時、正直複雑な気持ちだった。「お母さん、今日はね入浴と排泄はいせつを教えてもらったよ」「頑張っていて偉いね」電話を切って涙あふが溢れた。排泄はいせつという言葉が、耳から離れない。なんでうちの子が、知らない誰かのお尻ふを拭いているの?と。でもまた元気な報告の電話は来る。認知症のおばあちゃんは、なくした物を探す時、探検家みたいで可愛いつか、無表情なおじいちゃんにウィンクを教えた事。「100歳のおばあちゃんが長生きの秘訣ひけつは、なんでもありがとこの心じゃよと言っていたよ」等。「今日はね、おばあちゃんが靴下を右左反対にはいてしまい、恥ずかしくて泣いていたら、優しい先輩が、パパッと自分も靴下を反対にはいて、あれ? 僕も反対だった!アハハって、みんなで笑ったんだー」と。

こっちまで笑い声が聞こえる様な、温かい現場。

いつしか、私は楽しい介護の電話を待つようになった。大変な事や辛い事も多いはずなのに、なんでも面白い話にしてしまう。帰ってくるたびに、腕が太くなって、でも貴女は、日に日に輝きを増す。「きっと、私もいつか、誰かにお尻を拭いてもらう時が来るんだよね」貴女は介護の女神。

愛ある介護士達とその誇り高きお仕事を、今、私は心から尊敬している。

< 講評 >

介護を受けたご自身の体験と、介護職に就いた娘さんの成長を見守る母親の立場から書かれた「介護の女神」は、たくさんの応募作品の中でも特に社会に感動と希望を与えるものでした。

介護とは、排泄や入浴、食事介助など目に見える支援だけでなく、利用者の生活や環境を整え、一人一人がかけがえのない存在として自尊心を持ち続けていられるように支えていくことです。例えば、靴下を左右間違えて履き泣いている利用者の恥ずかしさや悔しさ、情けなさを察し、笑いに転換したとっさの判断と行動は、日頃から利用者を良く理解し、大切に思っているからできるのです。

介護の仕事の魅力は、人が人を支えるからこそその難しさと尊さがあると改めて教えてくれた作品でした。



優秀賞

「その願いをかなえたい…」小倉 サエ子様

感動介護を行った職員

合同会社アローズ-ミッション ラシークケア

中村 彰宏様

「一人暮らしだから自宅で最期までは無理でしょ」と病院から言われた。

Mさんは、昔から家族と連絡も取らず長くアパートで一人暮らしだった。飲食しても吐き、瘦せてフラフラだったが「自分の部屋で死にたい」と強く希望した。私とはもう数十年来のご近所さんで、同年代が「何かあったら助け合おう、お互いに世話しよう」と言い合って交流を深めていた。

ケアマネさんと、亡夫の療養時にお世話になった訪問看護ステーションに相談したら、すぐに動いてくれた。私も毎日世話に行ったが、看護師さん、ヘルパーさん、ケアマネさんも時間と役割を分担して来てくれた。だんだん歩けなくなり、起き上がれなくなり、氷片をなめるだけになった。それでも笑って「ここに居たい」と伝えた。まだしっかり話せた時、私は二つのお願いをされた。「死んだらこの着物を着せてほしい」中学卒業して田舎から出てくる時に、お母さんがお正月に着なさいと持たせてくれたそうだ。もう一つは、一枚の白黒写真で「お棺と一緒にいれて」と。80年代に流行った髪型の美人さんが微笑んでいた。「昔の彼女?」と聞くと照れ臭そうに笑った。お別れの日、息が荒くなっていた。朝、看護師さんが丁寧に拭いてくれて、昼に先生が往診、他の看護師さんやケアマネさんも集まり「Mさん幸せですね」と言う。一生懸命^{うなず}願った。その後間もなく息を引き取った。旅立ちの支度は約束通り、看護師さんにあの着物を着せてもらい、写真を胸に挟んで手を添えた。その顔は穏やかで満足気だった。皆さんの誠心誠意のお世話のおかげで、私は大役を果たせました。本当にありがとう。

< 講評 >

一人暮らしの方が自宅で最期を迎えることは困難なことと感じています。家族とも疎遠であればなおさらです。

そのような中、Mさんは「何かあったらお互い助け合おう、お互いに世話をしよう」と家族以上に付き合いのあった筆者である知人の方のおかげで、自宅で最期を迎えることができました。

介護や医療の専門職だけでなく、知人の方の支えがあったことでMさん自身も頑張れたと思います。

昔の思い出、母からの着物、昔の写真を胸に、知人の方に感謝しながら旅立つことができたと感じています。

知人の方の関りで支援者の輪ができ、そしてMさんの最後の思いを叶えることができ、まさに大役を果たされたことと感動をしました。



優秀賞

「皆様に支えられて、祖母は御年九十五歳」
三橋 いづみ様

出勤時、ふと見上げると祖母の居室。今日も一緒に、朝を迎えられた。安堵し、一日のスタートを切る。

幼き頃、祖母の優しい背中におぶさり、近所を散歩した。元気よく歩いて、一緒にきのこ採りにも出掛けた。夜眠る前、祖母の布団の中で絵本を読み聞かせて貰ったあの、温かな時間。祖母にとっての、ひ孫が誕生。私の育児を手伝ってくれた、あの心強さ。今も忘れない。

祖母は、御年九十五歳。介護度5。特別養護老人ホームに入所して四年半。

私は孫。祖母が入所する施設内の託児所に勤務する。職員さんの大切なお子様をお預かりする保育士。コロナ禍以前は、子どもたちと、ご利用様との交流が多く持てた。子どもたちの癒しのパワーは多大だ。ご利用様に笑顔が溢れる。祖母もまた、その内の一人だ。

OFF時間は、祖母との面会。私たち家族に、温かく対応して下さる職員さん。

小さくなってしまった背中を眺めながら、私は車椅子を押す。外の空気を吸う為、正面玄関を出て、散歩へと出掛ける。祖母の笑顔と共に記念写真。しかし、自撮り撮影は手がブレる。後方で見守って下さった機能訓練士さんが、すぐに駆け寄り、「撮りますよ。」とお陰様で、家族が揃った距離感も程良い、素敵なフォトが完成。これもまた、おもてなしの詰まった一枚の思い出写真となる。

「サッチャンはね〜♪を歌い始めると、続けて歌ってくれますよ。」と介護員さん。そう、祖母の名は、サチコ。親しみ深い歌に、心弾むのだろう。

食事について、お話し下さる管理栄養士さん。祖母の様子を伺い知ることができる一言一言は、私たち家族に安心をもたらしてくれる魔法の言葉へと変わる。

嬉しい、そして有難い。

ご苦労おかけしますが、今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。

< 講評 >

この作品は、ケアが世代を超えて引き継がれるバトンなのだということを改めて思い起こさせてくれます。幼い頃にお祖母様から受けたケアは「私」、「孫」へと引き継がれていきました。お布団の中の暖かな記憶、「私」が育児で心細かったときに感じた心強さ。これらのケアは「私」を形作り、これからも様々な形で他者へのケアとして引き継がれていくのでしょうか。

介護従事者が安心して働けるようにと作られた託児室は、このコロナ禍を通じて、多くの職員を支えてくれたことでしょうか。同じケアに携わるものとして心から敬意を表するとともに、過去から今へと様々な瞬間を通じてそのきっかけを作ってくださったお祖母様に心より感謝申し上げます。



優秀賞

「ある日の事」 渡辺 禮子様

感動介護を行った職員
株式会社サロンデイ サロンデイ東海大駅前
長田 弥己様

今日はサロンデイに行く日です。まだ外は薄暗く、時計を見上げれば4時を指しています。こんなに朝方から一日の始まり。体がこわばり、動かないので、時間をかけて、ゆっくり動かしながらサロンデイに行く準備です。楽をしていると体が動き辛くなるパーキンソン病。何事も継続は力なりと思い、続けています。

送迎車でサロンデイに着き、所長さんのお話からデイが始まりました。

時間が進み、指導員の長田さんに手を添えてもらって歩く練習の時間でした。緊張と不安で、どうしても足が動かず、涙が出てきて、とても恥ずかしい思いをしました。そんな私を、長田さんが優しく励まし、「急がないで。待ってますからね。」と、声をかけてくれました。

気がつくと、他のスタッフさんも、看護師さんも、笑顔で見守ってくれました。自分が情けなく、心の中で(明日から、もうサロンデイは辞めよう)と思う程でしたが、気持ちの「支え」があると、強く感じました。

自分の足でいつまでも歩きたい。一つの目標です。

指導員の長田さんをはじめ、サロンデイのスタッフさんに、有り難うと云える私で有りたいと思います。年を重ねて、自分が情けなくなる事もありますが、一日も長くそして笑顔でサロンデイに行けるように。

これからも、朝4時から準備をして、サロンデイの車を待つ私でいます。

< 講評 >

ご自身の病気や身体の状態を受け止めて、お辛いながらも前向きに暮らしておられる渡辺様に感服しました。その生活を優しく支えているのがデイの職員の皆さんでした。思うように身体が動かない時に情けなく、恥ずかしいと思う渡辺様に寄り添い見守ってくれています。「自分の足でいつまでもあるきたい」という目標とそこへの職員の支えががびたりと一致しているからこそ、一日でも長く通い続けたいという場所になっているのだと思います。身体の「自立」だけでなく、自分の力で歩きたいという自身の目標を持つ「自律」の両者を支えるのが、介護サービスの目的であるということを改めて考えさせられた一編でした。



優秀賞

「元気に働く母親への思い」

清水 亜衣子様

保険の外交員を退職まで勤めあげ、趣味のコーラスも本格的にやり始め、また高齢者の方のお庭の手入れのお手伝いをしたりと常に元気に活発に動いている母でした。2年前に物忘れが始まり、様子がおかしいということから一人暮らしの母はガスの消し忘れや鍵のかけ忘れも多くなり、生活にも支障が出てきました。同時に徘徊はいかいも始まり受診をした際には認知症と診断されました。このまま進んでいくのかと思っていた矢先にケアマネからデイサービスの紹介があり週2回の利用を開始しました。

当初馴染めるのか心配していましたが、ある時から自宅の片付け掃除を一人で行い、模様替えもようまでするようになったので嬉しくてそのことを連絡帳に書いたところ、デイサービスではご利用様がお仕事やお手伝いをする時間というのがあり、母が率先して食事前やおやつ前のテーブルを拭いたり、後片付けをしたりして、他のご利用者様と一緒に洗濯たたく畳のお仕事を嬉しそうにして、お互いに「ありがとう」「助かりました」「どういたしまして」など満面の笑顔で声をかけあっている話を伺いました。

先日認知症と診断されて丸2年が経ちましたが、今では1日の休みもなく、事前のお迎え電話でも「元気です。楽しみにしています」と答えている母の姿を見て、昔、幼い私が母に抱いていた「明るく元気で働き者の自慢の母」が戻ってきたことが娘として大変うれしく、デイサービスの皆さんに感謝を伝えたいです。

< 講評 >

「明るく元気に働く母」の姿が消えてしまうかもしれないとの思い、大前提である存在のゆらぎに気づいた時の不安やつらさ。親の老いは人生の大きな大きな波に違いありません。この大波をおだやかに幸せに越す時には、親子関係の不思議な力が働きます。それはお母さんがそそいでくれた愛情と大人になった娘さんがお母さんを大切に思うかけがえのないもの。

デイサービスの担当者は常々、家族愛がいかに人生の糧になるかを感じています。お母さんにぴったりのポジションが現れて幸せな日々がまた戻ってきたのは、きっと多くの人生に寄り添う仕事をしている職員さんたちが母と娘のきずなをしっかり受けとめた結果と思われます。お母さんとの穏やかで幸せな時間を末永く過ごして下さい。



優秀賞

「命を繋ぐ花」

社会福祉法人 寿幸会 旭ヶ丘特別養護老人ホーム
工藤 竜也様

Aさんはいつも折り紙でチューリップを作っては他の利用者様へお渡ししたり、職員にも渡すのが日課となっています。渡す時に、「このゴミをもらってくれねえか?」と、少し照れたような表情になります。定期的にチューリップをいただいている私は、「そんなに無理しないで大丈夫ですよ」と伝えました。Aさんは何事もないような表情で、「ボケの防止になるからよお、Bさんに教わったことをただやりたいんだよ」とのことでした。Bさんはひたすらにチューリップを折っては、みんなにお渡しして笑顔の花を咲かせる、「花咲かおばあちゃん」でした。そんなBさんの横にはいつもAさんがいました。いつの間にかAさんも、Bさんと一緒にチューリップを作っていました。

Bさんがお亡くなりになってからも、Aさんの行動は相変わらず、今でもずっと折り紙を折っています。

わたしの娘が幼稚園に通っていた時、Aさんに、「娘の幼稚園のお友達に、Aさんの作ったチューリップをお渡ししてもいいですか?」と尋ねると、嬉しそうに大量のチューリップをいただきました。登園時、娘にチューリップを持たせたその日の帰り、「みんながね、すごく嬉しそうにチューリップをもらってくれた」と、嬉しそうに話す娘を見て、私もすごく嬉しかったです。

BさんからAさんに引き継がれた命を繋ぐ花。Aさんが作ってくださる花のおかげで私の周りでは、たくさんの笑顔の花が咲いています。

< 講評 >

介護施設では、レクリエーション活動の1つとして折り紙があります。折り紙をどんな形にするか考えながら作ることは、脳の活性化や手指の機能訓練につながり、認知症予防にも効果があるとされています。「花咲かおばあちゃん」のBさんも一生懸命折り紙でチューリップを折り、みんなに渡していました。チューリップのバトン、BさんからAさんに引き継がれ、みんなを笑顔にするその花は、介護職員の工藤さんから娘さん、そして娘さんが通園されている園児へと渡されました。色とりどりの折り紙のチューリップが、施設を飛び出して、笑顔の花を咲かせてくれたようです。その笑顔のきっかけをつくった工藤さん。これからも温かい出会いと笑顔を繋ぐ介護職員さんとして頑張ってください。



佳作

「私は92歳 まだまだ元気です」

中村 義彦様

感動介護を行った事業所

株式会社サロンデイ サロンデイ鶴沼神明

「私は92歳 まだまだ元気です」自己紹介では、こうアピールする。現在では珍しくないが私の子供の頃は驚異的な高齢であった。80歳まで日本マスターズ水泳協会で競泳に参加して体を鍛えたベースがあるが、病を得たのちよりサロンデイで健康生活のコツを学んでいるので「まだまだ元気」の結果を生んだと思っている。

病気の始まりは80歳の時だった。心筋梗塞の入院検査で「あなたの血管の詰まりは手のうちようがない」など言われながら、2日かかりで8本のステントが挿入された。もちろん競泳は医師に止められたが、このころが私の人生のヤマだったのだろう。狭心症、膀胱がん、前立腺がん、糖尿病と入退院を繰り返し、さらに加齢黄斑変性症のオマケ付きで苦しめられた。「東京オリンピックを見て死にたい」と言ったら「それは無理だろう」と医師は答えた。なんの因果か70歳の妻と43歳の息子が相次いで病没した。落ち込みがちな毎日を送っている時期にサロンデイとの出会いがあった。

家族に勧められて見学を申し込んだ。薬クリエイトグループの一員で、しっかりした会社らしい。(株)サロンデイとハイカラな名の通り明るい雰囲気がまず気に入った。スタッフの指示で皆さん明るく動いている。半日の機能訓練の実施中であった。

「まあ、やってみるか」くらいの気持ちで始めたが、びっくりした。通所は送迎付きであるが運転手の乗車介助が優しく、事業所に着くと、一人一人にスタッフがついて、下車から着席まで誘導される。高級ホテル並である。感心したのはスタッフの方が、新しい利用者でも間違いなく名前を呼ぶことである。

延べ100人くらいと思われる利用者の名前をどうやって覚えるのか知りたい。

体温、血圧などの体調チェック、準備運動、6種のマシンリハビリに進んだ後、個人別リハビリがある。歩行訓練、柔軟体操、階段昇降などである。がんばれば拍手、お見事拍手が順番待ち利用者から出る。なごやかである。仲間同士のおしゃべりもまた楽しい。最後は、全員集まり整理体操をして帰宅となるが、このときも、雨の日、風の日を問わず、屋外で所長をはじめスタッフ全員の見送りがある。送りは家の玄関までが丁寧に実行される。頭が下がるときがある。

このような処遇を受けて気持ちよく、楽しく、休まず通所しているうちに、いつの間にか92歳になってしまったというのが実感である。私は「動け、喋ろう、笑え」を健康の基本と考えているが、サロンデイのリハビリ生活の中でこれが身につき、健康を維持できたと思う。

目標の東京オリンピック90歳、孫娘の成人式92歳と通過した。あと3年くらいはサロンデイのお世話になれるかなと考えている。誕生日にスタッフの方々やリハビリ仲間に「私は95歳 まだ元気です ありがとう」と挨拶したい。

佳作

「『サロンデイ』のデイサービスに通って」

竹内 紀代子様

感動介護を行った事業所

株式会社サロンデイ サロンデイ東海大駅前

家族で平穏に暮らしていたある日、家の二階から降りる時に手すりにつかまったつもりが、しっかり掴まっていなかったのか、力が無かったのか、そのまま頭から階下まで転げ落ちた。ちょうど娘がいたが、新学期の準備や行事等で仕事が山積みでパニックになったのか、「どうして…お母さんの介護なんて今、出来ないのよ」と大声で言っているのが意識朦朧とする中で、だんだん遠くなっていった。

初めて救急車に乗せられ入院する事になった。

次の日には意識が戻ったが、頭の傷だけで骨折はなかったものの、記憶と言語障害で話すことが難しい状態に。

退院してからも、気力体力とも低下し、自分の不注意で周りのみんなにこんなに迷惑をかけるのが怖くなり、出掛ける気にもなれなくなった。

歩く時に足が前に出なくなり、一生懸命、足に「一、二、三」と命令をかけながら歩くような毎日が続いた。

大好物の柿の皮剥きすら、手に力が入らないのか剥きづらく、皮のまま食べたりしていた時、娘に「皮を剥いてほしい」と言うと「自分でしましょね」と言われ、孫に頼んだら「お母さんに手伝っては駄目ですよとされているから。でもピーラーで剥けるよ。」と教えられ、やってみると、とても簡単に出来た。主人の分も一緒に剥いて「美味しいね」と食べた。

又、ある日、娘と買い物に行った時、主人は少しでも店の入口の近くに駐車してくれるのに、まったくそのような気くばりはしてくれない。何て思いやりが無いのかと腹が立ったが、人をあてにしても仕方ないと気づき、自分の力でやるようにしようと思い直した。

自分で何とか克服出来ないかと思っていたところ、地域の介護担当者から「デイサービス」を薦められ、どこが自分に合っているのか調べたり、地域にある介護の施設を何ヶ所か見学し、実際に体験もしてみました。そして、最終的に同じような事故でリハビリに励む人、体力向上を図る人など、介護を必要としている人達が通っている「サロンデイ」に通うことにした。

最初は運動が苦手なため、なかなか雰囲気にも馴染めず、体力も気力も衰えている自分がついていけるか気がかりでしたが親切・丁寧に指導して下さるスタッフの方々に励まされて、リハビリを続けることが出来ました。少しずつ「出来る事」が増えていくことに喜びを感じ、回復を願い「頑張ってみよう」という気持ちに変わっていった。特にその場だけでなく、自宅でも出来る体操のプリントを渡してもらえるので、家でも気軽に実践でき、今では、だいたい歩けるようになり、外出の不安もなくなった。

いま思えば、娘の冷たく聞こえた言葉も、取って私を奮い立たせ、甘やかさない為であったと理解できる。

今はスタッフの方々や家族に見守られているお陰で、安心して暮らしている。

あの時に、デイサービスを薦めてくれた介護担当者、サロンデイのスタッフの私達一人ひとりに献身的に介護に当たってくださっている姿に、感謝の気持ちでいっぱいです。

佳作

「ツナちゃんとお別れ」 島田 榮子様

感動介護を行った職員
社会福祉法人 徳心会 特別養護老人ホーム 菅の里
3階の皆様

ショートステイで利用してきた菅の里に入所出来たのは嬉しいことでした。お友達がいっぱいいて、食事はおいしいし、いつでもそばになじみの職員さんがいる安心感がありました。でも、入所してすぐにとても悲しいことがありました。お友達のツナちゃんが亡くなってしまったのです。ツナちゃんは少し前から食欲がなくて、あんまり食べれていないようだったので、「少しでも食べて」とか、「頑張って」とか、声をかけていました。ツナちゃんが食堂に来なくなってからも、職員さんが誘ってくれたので、ツナちゃんのお部屋によく見にいきました。「早く元気になって。」と声をかけるとツナちゃんは、「うん。」と返事をしてくれました。それなのに、亡くなってしまいました。職員さんのお化粧をしてもらったツナちゃんは、きれいで、眠っているようでした。お部屋にはツナちゃんの好きな花がかざられ、好きな音楽がかかっていました。とても悲しいけれど、温かいお別れでした。看取りになっていたと、あとで教えてもらいました。ツナちゃんは面会に来たご家族に「たくさんお友達がきてくれるからさびしくないよ。」と書いていたそうです。ツナちゃんは奄美大島あまみ おおしまの人で、奄美のみかんが食べたいと言っていたのを職員さんが聞いて、それをご家族に伝えたら、もってきてくれて、亡くなる前日に少しだけ食べられたそうです。みなに見送られて、ツナちゃんは、きっと安心して旅立てたと思います。ツナちゃんと知りあって仲よくした菅の里で、悲しいけど悲しいだけじゃない、温かいお別れがあるのだと知りました。ツナちゃん、またね。

佳作

「『元気の源』妻の支えとサロンデイ」

須山 清様

感動介護を行った職員
株式会社サロンデイ サロン・ディ・ウェルハイム淵野辺
スタッフ一同様

60才のうこうそくの時、脳梗塞のうこうそくを発症し半年のリハビリ入院生活となり、右上みぎじょう下肢にマヒが残り杖なしでは歩けず絶望感で暗い日々でした。30年働いた自営業をあきらめ43年住みなれた川崎を離れ引越した所が淵野辺でした。新天地でのケアマネさんの紹介でデイサービスを探している時に出逢ったのが、歩いて1分の所にオープンしたばかりのサロンデイでした。体験見学を申し込み明るく広々した施設でレッグプレスやエアロバイク等マシントレーニングを中心にして歩行訓練やこうくう口腔体操等行い、元気で明るいスタッフも気に入り即決で週2回通所する事にしました。新天地で友達一人いなかった自分にはスタッフや利用者さんとの会話がストレス解消にどれだけ役立った事か、通所して3年目には外出時必需品だった右足補助装具も指導員のアドバイスで外して歩けるようになり、7年目には首筋を痛めた事による頭痛で数ヶ月悩まされ、介護士さんが一緒に原因を探してくれて、頑張り過ぎてマシンの負荷を掛け過ぎと判り、自分に合った負荷で継続する事を教えてくれました。12年目の昨年は要介護3から2まで下げる事ができました。通所して12年。週2回1度も休む事なく元気でこれたのは、いつも送ってくれる妻とサロンデイのスタッフのおかげです。心も身体も苦しい時がありましたが、今はサロンデイのスタッフと利用者さんと楽しく過ごしています。明るい自分に戻れたことを感謝しています。

佳作

「老後の楽しみ人の和にあり」

早矢仕 千恵子様

感動介護を行った職員

株式会社サロンデイ サロンデイ二宮

本地 祐太様 平田 ひとみ様

八十一才の今、主人が亡くなって、名古屋から、ここ大磯に住む息子の近くに引越し、独り暮らしを始めて早や六年。友も無く淋しい老後と覚悟していましたが、縁あって、機能訓練に、毎週一回通う事が出来る様になりました。孫の様に若いスタッフに、優しく接してもらい、何時も「早矢仕さん」と、幾度も声かけをしてもらい、こちらに通う日を、心待ちにしている自分に、気付きました。難聴で身体障害者の私は、皆さんとの会話もままなりません、多くの仲間にも囲まれ、その輪の中に、自分も加わる事が出来て、気持も前向きになった様に思います。

大磯に来た当初は、右腿板断裂手術を受けたり、救急車で結石性腎盂腎炎で、平塚市民病院に運ばれたり、病院しか行く所が無く、息子からは、「病院でも行く所があって良いのでは」と云われ、慣れない知らない土地に来たのだから、仕方が無いと諦めていましたが、年と共に年々両手のバネ指が悪化、足腰も弱り話す人も少なく、淋しい気持でしたが、こちらに通い、まだ半年余りですが、気持が楽になり、毎週明るいスタッフに、幾度となく声かけをもらう、ただそれだけの何でも無い事が、こんなにも気持が明るくなるとは、何の束縛も無い独り暮らしではありますが、人々との出会いが、これからの老後に、こんなにも気持が和やかに、楽しくさせてくれる事を知った今日此の頃であります。

佳作

「どんな時も寄り添って」 高野 里香様

感動介護を行った職員

有限会社在宅ナースの会

看護小規模多機能型居宅介護(複合型サービス) ふくふく寺前

小菅 勉様 加藤 幸子様

父は一昨年五月に転んで、ベッド生活となり、その時からのふくふくさんとのご縁です。何回かの入退院後、今回は鼻腔栄養と喀痰吸引が必要となりました。入院して二か月間近、転院するか在宅介護か?選択がせまられました。母の兄妹は母の身体を心配して「病院に転院させた方が良い」と言うし、家に帰してあげたい気持ちと、介護出来るか不安であり、決断出来ずにいると、早速、家にケアマネさんと担当看護師さんが訪ねてくれ、母の話を聞いて下さり「私達と一緒に頑張りましょう」と言ってもらい、ご迷惑をかけてしまう事が心配でしたが「どんな状態でも大丈夫」と言って頂き、母は独りじゃない事に、とても勇気をもらいました。退院日、ふくふくさんに到着すると、父の顔が明るくなり、誕生日の前日という事もあり、おフロ好きの父が気持ち良く迎えられるようご配慮下さいました。翌日は車二台でスタッフの方、五人も駆けつけてくれ、バースデイ歌、色紙、記念写真を撮り、お蔭様で貴重な一日となりました。三日後、父を良く見てくれている看護師さんが、体調の変化にいち早く気づいて頂き、母の電話で翌日、私の家族五人で駆けつけ、父に感謝の気持ちを伝えられました。翌朝、息を引き取りました。ふくふくさんは、“悔いのない介護”を掲げていらっしゃいます。

まさに母も私も悔いなく過ごせますのは、いつも母の側に、ふくふくさんが居て下さったからです。愛あるスタッフの皆様との出会いに、感謝致します。

「ありがとうございました。」

「ありがとう」 藤池 雅江様

佳作

感動介護を行った職員
有限会社やすらぎの家 ケアプランなかむら
高橋 幸子様

我が家は現在、百歳七か月の義母と長男夫婦七十五歳の三人家族です。七年前に義母が左大腿骨骨折で入院手術をしました。退院時に沢山の課題が生じ、どう対応してよいか困りました。親類からケアマネージャーの紹介で介護担当者が決まり、課題がどんどん解消されました。福祉器具の貸与や訪問看護師、自宅入浴介助者等々あつという間に義母が生活しやすい環境が整い、お蔭様で歩行できるようになりました。デイサービス週三日、訪問看護週二日です。訪問看護は健康チェックとリハビリの歩け歩けをしてくれることで、義母は笑顔と相手へのねぎらいの言葉も聴かれるほどになりました。各々の担当者のスピード感のある連携と適切なアドバイス支援です。

時にいつもと違う気づきをすると心細くなり相談させてもらい、心の拠り所となっています。時には時間外になる時も主治医と連携がとれて心強いです。

暑い日、寒い日、雨の日、強風にもかかわらず、歩け歩けのリハビリに感謝です。

今朝も起床時に素人ながらの簡単リハビリで固まった関節を柔らかくし股関節、四肢をほぐし手引きで歩かせトイレへ誘導します。排尿時「おしっこが出てよかったね」と言うと「母ちゃんのお陰だよ。こうして長生きできるのも。ありがとう。」と言われます。日に日に歩きが困難になる中、皆様の介護支援と共に、義母との触れ合いが続きますように。そしてありがとう。

「感謝の気持ち」 大塚 喜久江様

佳作

感動介護を行った職員
社会福祉法人 神奈川やすらぎ会
特別養護老人ホーム 第二森の里 2階職員の皆様

軽い認知症と大腿骨骨折により、車椅子生活になってしまいました。入所当初は帰宅を喜んでいた母が、入所生活が長くなりますと、二、三日経ちますと、施設に帰りたくなります。家族皆から慕われた母、入所を反対した家族も、騒ぐ母に対する不満が出てきました。ある日、そんな事を施設長様に話しますと「いつでも、お電話下されば、迎えに行きましたのに」と優しく接して下さった事、コロナ禍でも、面会時間を作って下さったりと、入所者や家族の気持ちに寄り添い、親身になって色々考えて下さる施設長様や介護職員の皆様の温かさと思いやりには感謝の気持ちです。ある日の事、機嫌悪い母に困っていた時、入所当初からお世話を下さっている職員の方が、傍に来て下さった時です。母の態度が、言葉では言い表す事が出来ない位変わりました。嬉しそうな笑顔、頼りきっている笑顔、仕草、二人のようすを見ていて安堵し涙が出てしまいました。

看取りの時期になり、泊まる日がありました。時間構わず、大声を出して、騒いだり、介護職員を一人じめする人を、一人ひとりに対して機敏に優しく接してあげています。今まで生きて来られた方々と言い、主張を聞いてあげて、理解をしてあげて、優しく接してあげていました。介護職員の仕事の大変さは、筆舌には表せない程でした。私自身が入所者に献身的に接する姿を見て、介護職員の皆様に対する言葉は、感謝しかありません。「有難うございます。」

第11回
かながわ感動介護大賞
応募作品の総評

新型コロナウイルス感染症も2023年5月には2類感染症から5類感染症になり、私たちの生活もようやく元の生活に戻り始めました。

今年度は、ご本人・ご家族の皆さま、ご友人の皆さま、介護現場の職員の皆さまから合計63点の応募がございました。

ご本人の方からは、身体が動きづらくなる病気と向き合い、涙し、恥ずかしい気持ちを抱くなかで、デイサービスのスタッフの方々の笑顔に支えられ「通いの楽しみ」を記した生きる力になっているエピソード等が多くございました。

また、ご家族の皆さまからは、介護職を選んだ娘さんの「排泄」という言葉が、耳から離れず、涙があふれたものの、大変だと思われるケアも笑いにかえる介護現場の生き生きとした様子を娘さんから伝え聴く中で、愛ある介護職の皆さんの誇り高さ仕事を心から尊敬するようになった等の感動の涙のエピソードもございました。

ご友人からは、「ひとり暮らし同士のご近所さんとの絆」を関係する専門職の方々が支えてくださったことへの感謝のエピソード、そして職員の方からは、利用者さんとのかかわりの中で生まれた「折り紙の花が、園児たちの笑顔の花」につながったエピソード等々、本当に心温まる作品ばかりでございました。

大変な社会情勢のなか、多くの方々が大変な思いをされながらも本大賞に心をお寄せくださり、また、趣旨をご理解くださり協賛いただきました関係者の皆さま、広報等でご尽力いただきました皆さまに、改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年度も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

かながわ感動介護大賞 表彰選考会 座長 大島憲子

付 録

かながわ感動介護大賞の
最優秀賞作品を漫画化したので、
ご紹介します!

令和4年度
第10回かながわ感動介護大賞



吉備 育子様
「出会い」

(漫画:ちべた店長)

漫画は、Instagramでもご覧いただけます。

福祉関連情報や「かながわオレンジ大使」(認知症本人大使)の
活躍についても発信しているので、ぜひフォローしてください!

かながわ感動介護大賞
公式Instagram

フォローはこちらから▶▶▶



出会い



1

※漫画は下の番号順①→②→③→④→⑤でお読みください



3

2



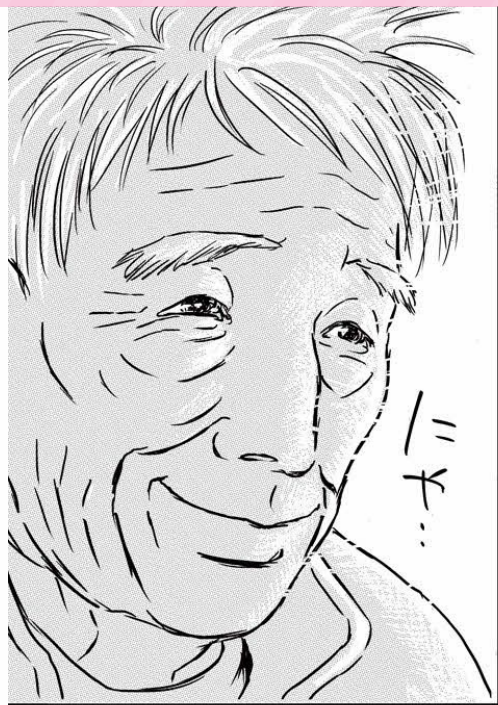
気持ちに余裕が
できると

笑顔も増え



冗談を言って
みたりすると

なんやね



ニヤ...



ふふっ

お別れは突然でした



胃瘻交換の
入院中に急変

あつという間でした



一年間の介護生活でした



看多機のみなさんも

戻って来られるのを
お待ちしてたんですよ

...と言ってくださって



ほんとうに

大事にして
いただいて...

お世話になって
よかった...

看取りの最後を

こんなに心穏やかにできたのは

苦しい時に寄り添ってくれた

みなさんとの出会いのおかげでした

大切な大切な、宝物の時間となりました

かながわ感動介護大賞協賛団体



神奈川県遊技場協同組合
・神奈川県福祉事業協会



公益社団法人
横浜市福祉事業経営者会



公益社団法人
横浜市福祉事業経営者会

株式会社サロンデイ



一般社団法人 神奈川県高齢者福祉施設協議会
一般社団法人 神奈川県老人保健施設協会
株式会社えひめ飲料東京工場
社会福祉法人 横浜長寿会
社会福祉法人 神奈川県匡济会
川崎市老人福祉施設事業協会

社会福祉法人 恩賜財団済生会支部神奈川県済生会
社会福祉法人 富士美

社会福祉法人 竹生会
公益財団法人 神奈川県老人クラブ連合会
社会福祉法人 二津屋福祉会 ロゼホームつきみ野
社会福祉法人 八寿会
社会福祉法人 公正会 特別養護老人ホーム希望苑

随時受付中!

かながわ感動介護大賞 感動介護エピソード募集

今度はあなたの「感動」介護のエピソードを
伝えてみませんか!
職員の方や感動的な場面を
直接見聞きした方のエピソードも
募集しています。

ご応募お待ちしております。



※詳しくは、県ホームページ

「かながわ感動介護大賞エピソード募集」をご覧ください。

※インターネットからも応募できます。

